

平成24年  
11月1日号

子どもと未来の柏のために

# 放射線対策 NEWS NO.020

掲載情報は個別に記載したものを除き10月23日現在のものです

## ホールボディカウンターによる内部被ばく測定費用の一部助成を開始

放射性物質による内部被ばくの状態を皆さん自身で確認することができるよう、妊婦と18歳以下のかたを対象にホールボディカウンターによる内部被ばく測定に要した費用の一部を助成します。

測定日に柏市に住民票があり、次のいずれかに該当するか▶測定日に妊娠している▶平成6年4月2日以降に生まれたかた※平成6年4月2日～平成7年4月1日生まれのかたは、平成25年3月31日までの測定が助成対象。乳幼児で測定が困難な場合は、生活を共にしている保護者が代わりに測定可。測定が困難な乳幼児が2人以上いる場合でも、代わることができる保護者は1人だけ  
助成額／1人3,000円以内。生活保護受給世帯のかたは、1人6,000円以内※1人1回だけ  
助成対象となる測定期間／平成24年4月1日～平成25年10月31日  
測定機関／指定はありません。市が把握している近隣の機関は別表のとおりです  
申請方法／平成25年12月27日(金)までに、測定結果が確認できる書類と領収書の原本、振り込みを希望する口座の通帳(本人か同世帯のかたのもの)、認印、妊婦のかたは母子健康手帳、生活保護受給世帯のかたは保護受給証明書を持って、保健所総務企画課(ウェルネス柏3階)へ直接※郵送での申請に必要な書類等、詳しくは問い合わせを

保健所総務企画課 ☎7167-1255

### ● ホールボディカウンターって？ ●

体内に存在する放射性物質から放出されるガンマ線を、体外に設置した検出器を用いて計測するものです。

### ■ 近隣の測定機関一覧

測定機関名	場所	申し込み先
放射線リスクリサーチセンター	東京都大田区 東海3丁目2-1 大田市場内事務棟8階	☎03-5755-9633 ※月～金曜日の午前9時～午後5時・土曜日の午前9時～正午
高輪クリニック	東京都港区 高輪4丁目23-6 ハイホーム高輪201	☎03-3449-4909 ※月～金曜日の午前10時～午後1時30分・午後2時30分～6時
我孫子放射能計測センター	我孫子市 柴崎台3丁目5-20 スクエア小池102号室	☎7182-0588 午前10時～午後6時 ※木・土曜日は休み
放射能プレミアムドックセンター	東京都品川区 北品川4丁目7-35 御殿山トラストタワー13階	☎03-5795-1840 ※月～土曜日の午前9時～午後6時
	柏市柏3丁目6-29 サンライズ吉野ビル5階	

測定の結果に基づいた対策を提案!

### 私有地の放射線量訪問測定による除染相談をぜひご活用ください

現在、市内の空間放射線量は低減を続けていますが、放射性物質は雨どいの下などに集まり、局所的に放射線量が高くなる傾向があります。その範囲を特定するためには、地表面の測定が有効です。



市では、測定経験豊富な測定員が訪問して、地上1メートルの高さに加え、地表面での測定を行っています。その際には、放射線量が多く集まっている場所の確認を行うとともに、除染作業方法のアドバイス、放射線に関する情報や防護の考え方等、各ご家庭の状況に合わせた対策を提案しています。

訪問測定の申し込みは、放射線量測定コールセンターにお問い合わせください。

放射線量測定コールセンター ☎7168-1036

### 放射性物質の検査結果

■ 市内の農産物	農政課 ☎7167-1143
[北部] キュウリ、冬ガン、四角豆、小松菜、ホウレン草 [中央] サツマ芋、オクラ、トウモロコシ、ジャガ芋、小松菜 [南部] サツマ芋 [手賀沼周辺] 落花生、里イモ、トマト、ニンジン、カブ、ハクサイ、ニラ	検出下限値未満 ( <b>厳</b> 134: 6.76 ~ 11.01、 <b>厳</b> 137: 6.12 ~ 9.92)

(10月2日～22日検査分)

■ 給食食材	学校保健課 ☎7191-7376
牛乳、米、シイタケ、サツマ芋、栗など11品目	検出下限値未満 ( <b>厳</b> 134: 10、 <b>厳</b> 137: 10※ 飲用牛乳は各1)

(9月28日～10月13日検査分)

■ 小中学校(提供した給食1食分)	学校保健課 ☎7191-7376
自校調理22校、給食センターの提供食	検出下限値未満 ( <b>厳</b> 134: 0.8 ~ 1.3、 <b>厳</b> 137: 0.9 ~ 1.6※ 飲用牛乳は各1)

(10月5日～19日)

■ 保育園(提供した給食1食分)	保育課 ☎7167-1137
公立・私立合計20園の提供食	検出下限値未満 ( <b>厳</b> 134: 0.52 ~ 0.74、 <b>厳</b> 137: 0.52 ~ 0.70)

(10月1日～16日)

■ 表記の説明  
**N**=NaI (TI)シンチレーションスペクトロメータによる検査  
**☒**=ゲルマニウム半導体検出器による検査  
**厳**=放射性セシウム  
 数値は各下限値。単位はベクレル/キログラム  
**検出下限値**=使用する検査機器で検出できる最小値のこと  
 ※検査機器が異なるため、下限値の設定が異なります。NaI (TI) シンチレーションスペクトロメータ検査で、数値が検出された場合、より精密な測定が可能な「ゲルマニウム半導体検出器」で再測定を行います

日頃、多く寄せられる放射線に関する疑問や悩みについて、市民の皆さんと共有し一緒に考えていきます。柏市の状況を正しく理解し、適切な対応を心掛けることが大切です。

もっと知りたい **Q&A** **かしわの放射線** 第2回

☎放射線対策室 ☎7168-1036

### Q? 公園で子どもを遊ばせても大丈夫?

去年の5月に夫と3歳の子どもと柏市に引っ越してきました。子どもを外で遊ばせるため、自宅近くの公園の放射線量を市のホームページにある放射線量マップで確認したところ、0.30マイクロシーベルト/時でした。

近々、除染作業をするとの事でしたが、この数値で今遊ばせても問題ないでしょうか。

子どもはこの先何十年も生きていくので、少しの追加被ばくでも危険があるかもしれないと考えています。

### A 一緒に考えてみましょう!

まずは、現状の理解がとても大切になります。たとえば0.30マイクロシーベルト/時の野外環境に1日のうち8時間、残りの16時間を木造家屋内(壁などによる遮へい効果等で、屋外の約40パーセント程度まで低減)で過ごすような生活習慣を代表例として考えてみると、年間では1.6ミリシーベルト程度になります(0.30マイクロシーベルト/時×(8時間+0.4×16時間)×365日から)。

例えば、現在日本人は食事や喫煙などの生活習慣や、ウイルス、大気汚染などのさまざまながん因子によって約30パーセントのかたががんで亡くなっているといわれています。100ミリシーベルト以下の低い被ばく線量域のリスクは、これらのリスク要因に埋もれてしまい、データとして見えづらくなります。放射線防護の考え方では「被ばくした線量に比例して発がんの死亡リスクが高まる」の仮定に基づき、それぞれの状況に見合ったさまざまな数値基準、安全のルールを決めようとしています。

被ばく線量と影響の関係は、広島・長崎の原爆被害者の疫学調査の結果が精査されており、国際的にもよく用いられます。この結果によると、100ミリシーベルト(1マイクロシーベルトの100,000倍)相当の被ばくをしたときに、その被ばくが原因で、将来にがんで死亡するリスクは0.5パーセント程度高まるだろうと考えられています。それよりも低い線量で発がんリスクが確実に高まるかどうかについては、現時点では誰にも分からない状況です。これは、日常生活を送る上での発がんのリスク要因が放射線以外にも知られており、それらの影響のほうが大きく、放射線の影響は埋もれて見えなくなってしまうからです。

このような数値的な背景と、リスクに関する知識を持った上で、市の現在の状況を上手に読み解き、各自で判断することが大切になります。国連科学委員会の報告書では、自然から受ける1年間の被ばく線量の世界平均は、2.4ミリシーベルト程度といわれています。年間1.6ミリシーベルト程度のリスク回避のために、お子さんを外で遊ばせるのをやめるという選択と、外遊びによる子どもの成長機会を失うことが見合うかどうか、などが個人の判断に委ねられるところでしょう。

リスクを下げるために簡単にできる工夫をする、例えば「除染済みの公園を選んで遊ばせる」「市が貸し出している放射線量測定器を使って事前に線量が高そうな場所を特定し、そこにはむやみに近付かせない」などは今すぐに

実践できそうです。また、他のリスクへの防護として共通して言えることですが、外遊びの後の手洗い、うがいの励行を、この機会にぜひとも習慣付けたいところです。

### ■ 発がんリスクの要因等

「低線量被ばくのリスク管理に関するワーキンググループ」報告書(内閣官房)に基づくパンフレットから引用

発がんリスクの要因	放射線に換算したときの数値
喫煙	1,000～2,000ミリシーベルト相当
受動喫煙※1	100～200ミリシーベルト相当
肥満※2	200～500ミリシーベルト相当
野菜不足※3	100～200ミリシーベルト相当
東京～ニューヨーク間の往復(航空機旅行での高度による宇宙線の増加)	0.2ミリシーベルト相当

※1 夫が非喫煙者である女性のグループに対し、夫が喫煙者である女性のグループのリスク

※2 BMI 23.0～24.9のグループに対し、BMIが30以上のグループのリスク

※3 1日当たり420グラム摂取のグループに対し、1日当たり110グラム摂取のグループのリスク

◎事故による被ばくリスクを、自発的に選択できるほかのリスク要因と単純に比較することは必ずしも適切ではないものの、リスクの程度を理解する上での参考となります

(東京大学環境安全本部・飯本武志准教授監修)